

水稻「実りつくし」の安定栽培法

筑後分場、農産部

1 背景、目的

水稻「実りつくし」は、「ヒノヒカリ」に比べて多収で、品質が安定して優れることから、中食・外食向けのお米として期待されています。今後、「実りつくし」の作付を推進するためには、本品種の特성에対応した栽培技術を確立する必要があります。

そこで、「実りつくし」の高品質・多収のための安定した生産を行うための移植時期、施肥法および栽植密度を明らかにしました。

2 成果の内容、特徴

- 1) 高品質で多収となるのは移植時期が6月20日頃です。6月30日頃の移植は検査等級が1等で食味が良好と、同様であるものの、収量が低下します(表1)。
- 2) 一般平坦地では10a当たり窒素成分で基肥に5kg/10a、穂肥3.5kg/10a(2回施用:2kg+1.5kg)、平坦肥沃地では基肥に3kg/10a、穂肥3.5kg/10a(2回施用:2kg+1.5kg)を施肥すると、穂肥2kg/10a(1回施用)と比べ高収量が得られます(図1)。
- 3) 高収量で品質が優れる栽植密度は60株/坪(18.2株/m²)です。極端な疎植(40株/坪)を行うと、登熟歩合、千粒重および整粒歩合の低下が生じ、品質が劣ります(表2)。

3 主要なデータ、画像など

表1 移植時期と生育、収量および品質（平成27～29年）

移植 時期 月.日	出穂 期 月.日	成熟 期 月.日	有効 穂数 本/m ²	m ² 当 り 粒数 ×100粒	登熟 歩合 %	千粒 重 g	精玄 米重 kg/10a	収量 比 %	検査 等級	玄米 タバク %	食味 総合
6.17-19	8.30	10.15	314	296	86	24.5	636	100	2.8	6.3	+0.21
6.30	9.5	10.20	306	291	81	24.1	562	88	2.8	6.0	+0.22

注) 1. 収量比は6月17～19日移植を100とした比率。
2. 検査等級は1（1等上）～9（3等下）。

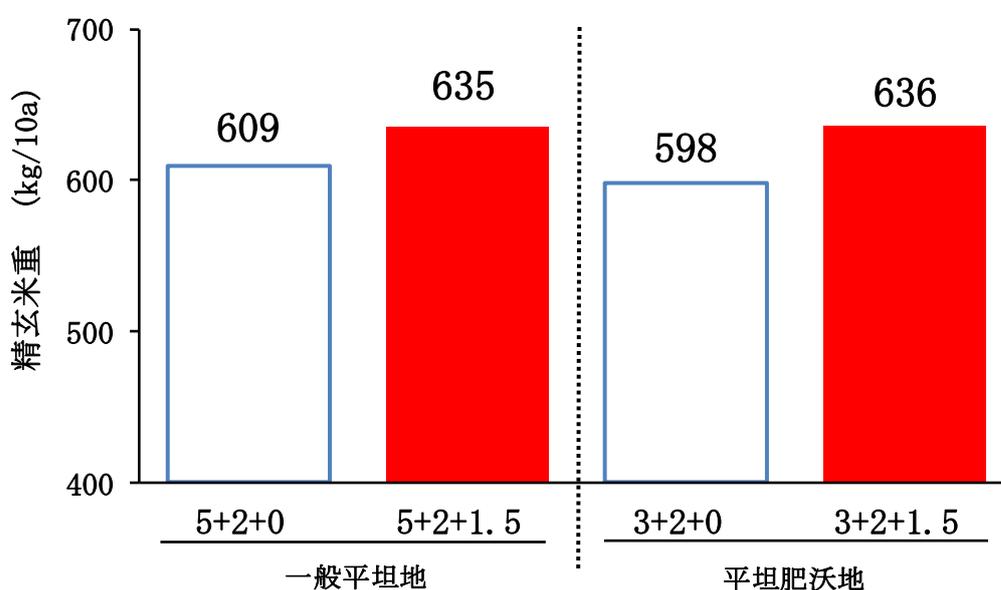


図1 窒素施肥法と収量（平成27～29年）

注) 横軸の数値は基肥+1回目穂肥+2回目穂肥の窒素施肥量 (kg/10a) を表す。

表2 栽植密度と生育、収量および品質（平成28～29年）

栽植密度(株)		m ² 当 り 粒数 ×100粒	登熟 歩合 %	千粒 重 g	精玄 米重 kg/10a	収量 比 %	検査 等級	整粒 歩合 %
坪当たり	m ² 当たり							
40	12.1	339	81	23.6	630	99	3.5	73.0
50	15.2	310	85	24.4	623	98	3.5	76.5
60	18.2	297	86	24.4	634	100	3.0	76.8
70	21.2	319	84	24.3	636	100	3.3	76.4

注) 1. 収量比は60株/坪を100とした比率。
2. 検査等級は1（1等上）～9（3等下）。